

2011年(平成23年)4月24日(日曜日)

# 中海は宝物

## 未来守りネットワーク活動記

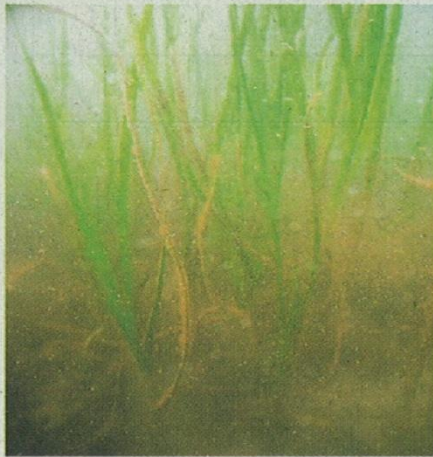
< 2 >

酒を飲みながら、4人の それから約2カ月後、美若手企業人たちの白熱した 保関の醤油(しょうゆ)屋の社長から「美保関周辺の議論の続きです。

2003年9月ごろでし 海域で、某大手港湾建設会社。誰の発言か覚えていないのですが「われわれ企業 った。その担当者によると、人も真剣に地域貢献を提案 昭和30年ごろの中海には、し、自身の手で活動できる アマモ場が1千枚以上あった組織をつくるべきだ」「い たらしい。4、5年前からま流行のNPO法人を立ち 東京湾や瀬戸内海ではアマモ 上げ、環境再生・漁業振興 毛増殖が盛んになり、漁場とか海洋スポーツ振興を提 再生や水質浄化に役立って案してはどうか」など、好 いる。一度この担当者の話 き勝手な意見を述べて会合 を聞いてほしい」と連絡が は終了しました。 ありました。

## 誕生物語 ②

外江港に自生する天然のアマモ(2009年10月撮影)。未来守りネットワークを立ち上げるまで、その存在を知らなかった



油屋の社長が知り、連絡し「い」と依頼されました。 できたようです。 早速、先の会合に参加し 間もなく、その担当者に た3人と他の3人を集め、 会い、アマモは水質浄化や 担当者から聞いた話をしま 魚介類の産卵場、稚魚の育 した。その結果、アマモを 成場として重要な役目を果 再生させる組織を構築する たすことなどを聞きまし ことで一致し、まず責任者 た。中海は干拓工事の影響 を決めることになりました による水質悪化で、アマモ た。

が約1千枚にまで激減し、ア しかし立候補する者はな マモ場と呼べる水域は境港 く、突然「奥森が責任者に 市外江地区の沿岸にかろう 適任である」との声に全員 じて残っていることも知り が賛同したのです。断った ました。 のですが、押し切られてし ました。後から聞いた 話では、最初から私に責任 者をやらせることを、港湾 建設会社の担当者と某3人

## アマモ再生へ組織構築

正直、何で私に言ってく す。当時、私の会社は美保 るのかと思いました。私は 湾に海藻増殖用塗料を塗っ また、この担当者はアマ モ再生は地元の協力がな ないの社長が事前に決めていた 「アマモ」が何であるか全 た間伐材漁礁を沈める実験 とできないと力説。「ぜひ のでした。(奥森隆夫・未来 く理解していなかったので をしていました。それを醬 とも組織を立ち上げてほし 守りネットワーク理事長)